

林業情報誌

竹とんぼ

NO.23 2008年春号



発行：宮城県大河原地方振興事務所 林業振興部
〒989-1243 宮城県柴田郡大河原町字南129-1
TEL 0224-53-3111 (内線422~425)
FAX 0224-52-3485
Homepage <http://www.pref.miyagi.jp/oksgsin/>



(写真：ふるさと林道「鈴字線」の風景)

目次

- | | |
|--|----|
| 〈特集 (木材利用推進の取り組み)〉 | P1 |
| 県産木材製品 (宮城県グリーン製品) の利用推進について
公共施設に仙南の地域材を～仙南地域材利用推進シンポジウム開催～ | |
| 〈トピックス〉 仙南地域の新たな特産品づくりを目指して | P2 |
| ～ムラサキシメジ商品開発検討会～
労働災害ゼロを目指して～林業労働災害防止講習会の開催～
森林巡視ボランティア活動中 | |
| 〈お疲れ様でした〉 県有林巡視員、自然保護員退任者から | P3 |
| 〈シリーズ〉 フレッシュフォレスター～若手林業人の紹介～ | P4 |
| 〈市況〉 木材市況、特用林産物市況 | |
| 〈情報発信〉 “伐って未来ン” 仙南の森づくり運動イメージキャラクター誕生！！ | P5 |
| 仙南発！間伐材を使った新製品第1弾「間伐っち (かんばっち)」 | |

県産木材製品（宮城県グリーン製品）の利用推進について

我が国では、平成12年5月にグリーン購入法が制定され、「違法に伐採した木材は使用しない」という基本的な考え方にに基づき、違法伐採対策に関する各種取り組みを実施してきました。また、平成18年4月にはグリーン購入法に基づき、木材・木製品も合法性、持続可能性が証明されたものを購入することと位置付けました。

本県においても「グリーン材購入促進条例」に基づき、公共事業における木材・木製品の積極的な利用を推進しており、現在では、県の公共工事において多角的に汎用しています。また、平成18年3月にはみやぎ材を安定的かつ確実に供給し、需要と供給双方の利便性に資することを目的とした「みやぎ材利用センター」が設立され、ここでは、品質の保証として「みやぎ材」であることを証明する「認証シール」を貼付して製品を出荷することとしており、公共工事に使用する木材・木製品については、センターを通して購入するよう受注者に対して積極的に指導しています。

今後は、市町村をはじめ林業関係者にも「合法木材」について認識を深めていただき、さらなる県産木材・木製品の利用拡大について御理解と御協力をお願いします。なお、「みやぎ材利用センター」のパンフレットは森林整備班に備え付けてありますので、お気軽にお問い合わせ下さい。（担当：木材）



製品等に貼付する「認証シール」



工事用木製看板「看板つ着」

公共施設に仙南の地域材を～仙南地域材利用推進シンポジウム開催～

地域の森林資源を地域で活用する・・・それは、地域林業の活性化による森林の健全化に繋がるだけでなく、移動エネルギーを抑制させる省エネにも繋がります。そこで、1月31日に宮城南部流域森林・林業活性化センター仙南支部と協働で、公共施設の関係者（市町の林務・建設・教育の担当者）やセンター会員等を対象に、地域材活用のためのシンポジウムを開催しました。

講演では、一級建築士の佐々木文彦氏（石巻市）から「地域材活用のこれからの家づくり」と題して、自ら代表となっている「杜の家づくりネットワーク」の取り組みや、施主のライフスタイル等要望を取り入れた家づくりなどについて紹介して頂きました。

パネルディスカッションでは、仙南地域での地域材活用取り組みとして「川崎町の資源をいかす会」や丸森町建設職組合青年部「いぐいぐ」グループの活動内容、(株)サカモトの自社所有林による家づくりや丸森町担当者から地元木材を使用した公共施設などについて事例紹介があり、さらには、木材を供給する側として、丸森町森林組合から森林資源の現状や木材の活用について、また、みやぎ材利用センターからは「優良みやぎ材」の活用等についてPRして頂きました。

今回、各方面から様々な取り組みについて情報収集ができ、地域の資源をどう活かしていくか考えるいい機会となりました。今後も継続して、地域住民の方々が木のぬくもりに触れあうことができる、公共施設の木質化を呼びかけていきたいと思えます。（担当：前田）



佐々木文彦氏による講演



パネルディスカッション

仙南地域の新たな特産品づくりを目指して～ムラサキシメジ商品開発検討会～

今年度から実用化栽培の始まったムラサキシメジを仙南の特産品とするため、フードコーディネーターの早坂具美子先生をアドバイザーに迎え、生産から加工・販売に関わるメンバーで構成する検討委員により商品開発検討会を開催しました。

ムラサキシメジは10月下旬から11月にかけて発生するキノコで、季節限定の新たな地域食材です。しかし、実際に地域食材として利用する場合、発生時期が短く安定的な供給が難しいため、地産地消を推進する地元の料理人等から「味や食感を活かした保存方法はないのか」との意見が寄せられ一次ストック（材料として一次加工したもの）としての商品開発に取り組みました。

商品開発の条件としては、ムラサキシメジの特徴である色や食感を活かし、加工コストが安く、地元で加工できるものということで①急速冷凍、②加熱乾燥、③水煮、④天火乾燥、⑤フリーズドライの五つの加工方法で試作試験を行いました。

当日は、それぞれの試作品を使い炊きこみ御飯、クリームパスタ、炒め煮、コンソメスープ、お吸い物に料理し試食も行ったところ水煮は食感が良く、フリーズドライは香りが良いと好評でした。今回の検討会では一次加工により旅館やレストランに食材として提供することも必要だが、一次加工は消費者向けではないため一歩進めて炊きこみ御飯の素などの商品化を期待するとの意見がだされました。今後は地元直売所を中心とした生での地場売りを基本としつつ、地域の方々と協力し仙南の新たな特産品としての可能性を追求していきたいと思います。（担当：名和）



検討会の状況



ムラサキシメジ料理の盛り合わせ

危険ゼロを目指せ～林業労働災害防止講習会の開催～



現地講習の状況

林業においては、他産業などに比べると毎年高い確率で災害が発生しています。特に、死亡災害については、平成19年次で全国で51件（本県1件）発生しており、依然として推移は横ばい状態となっています。

このような状況から、当事務所では《労働災害ゼロ》・《危険ゼロ》を目指すため、毎年この講習会を開催していますが、今年度は夏期・冬期の2回に分けて実施しました。

夏期においては、この時期に多い『ハチ』、『熱中症』を主としての講義、また、消防署員の協力のもと『被災時の応急処置』の講義・実演を行いました。冬期講習では、最も災害発生率が高い伐倒作業に主眼をおき、実際の間伐稼働現場において掛かり木や作業効率を考慮した伐倒順序・方向などを参加者全員で検討・発表し、その後伐倒まで行いました。

この間伐選定木の伐倒順序や方向を検討するのは今回が初めての試みでしたが、それぞれの経験などから良く検討されており、非常に有意義であったと感じています。

当事務所管内では、幸いにも大きな事故は発生していませんが、冬期間は凍結路面での転倒や、雪下の見えない材に足を挟んでの怪我など、小さな事故が発生しやすい時期でもあるので、危険予知を入念に行い《危険ゼロ》にしたいと思います。（担当：津谷）



安全作業自己チェックをしている参加者

森林巡視ボランティア活動中

毎年、4・5月は山菜取りを楽しむため、地元の人のみならず、仙台等の都市住民も多く入林されます。マナーを守って楽しめる方がほとんどですが、中にはゴミを放置していたり、タバコをポイ捨てするような方もおります。

特に行楽期と重なる春期・秋期は空気も乾燥し、地面には枯れ葉が多く存在するなど最も山火事の危険性が高まる時です。当管内でも140ヘクタールも焼失した平成14年の山火事や昨年丸森町で多発した不審火などはいずれもこの時期に発生しています。

森林は、ご存じのとおり水源のかん養、災害の防止、自然環境の保全や地球温暖化防止など、私たちが安全で安心した生活をおくる上で様々な役割を果たしています。そのような森林を大切に守り、次世代に引き継ぐためには、山火事の予防をはじめより多くの方の目で森林被害や山地災害の兆候を発見することが必要となっています。

そこで、宮城県では平成19年から「みやぎ森林保全推進活動」を開始しました。これは、ボランティアで森林巡視活動を行っていただく「みやぎ森林保全協力員」と、森林やその周辺で活動を行う団体や事業者の方々と協定を締結し、森林被害発生時に連絡をいただく「みやぎ森林保全協定協定」の二本立てとなっています。

現在、当管内では13名の保全協力員と5つの森林組合が協定を締結して活動しています。

活動を開始して一年が過ぎようとしていますが、この間でも前述の不審火をはじめ、ゴミの投棄、無許可の森林伐採や林道被害の報告をいただいております。関係機関との連絡をとりながら対応を行うことができました。また、昨年は例年以上に台風による大雨被害が多い年でありましたが、その都度山林被害が発生していないか確認をしていただいた協力員の方もいらっしゃり、その活動に対しては誠に頭の下がる思いです。

皆様も森林を大切に守り育てるとともに、森林で赤い腕章をつけた森林保全協力員の方を見かけましたら、その活動に御協力いただきますようお願いいたします。(担当：三島)

お疲れさまでした

県では、県有林の適切な保護管理や自然環境の保全・鳥獣保護等の業務に携わる方として、県有林巡視員と自然保護員を地域の方々に委嘱しています。そのうち、平成19年度限りで、県有林巡視員2名、自然保護員3名の方が退任することとなりました。

そこで、代表として2名の方に長年の活動を通しての思い出等をお話しして頂きます。



県有林巡視員
(白石市小原地区)
村上 佐吉 氏

平成10年4月に小畑様から引き継ぎまして、早いもので10年になります。

巡視員をしていて一番心配なのは、4月・5月の2ヶ月です。山火事の多い月でもあるので、山火事が無く一日を過ごすことを願っていました。4月・5月は山菜取りの人も多く、県有林を巡視中に多くの人たちと出会います。まず一番先に、携帯の灰皿を渡し、そして、「たばこの吸い殻を、それに入れて消してください。」と、よく注意して、県有林を巡視しています。山に入る前には花火を鳴らし、呼子を吹いて、クマが来ないように注意をして巡回しています。スギ山に入ると、多くのスギの木の皮が剥かれているところも多くあります。こんなところを見ると、本当に一人です歩くのが恐くなります。

毎年こんなことを繰り返して、もう10年が終わろうとしています。そして、年に一度研修に行き、私にとって大きな思い出を作ることが出来ました。

また、一番残念なことは、県の方針で仕方のないのですが、来年の3月31日で巡視員が廃止になることです。聞いた時、ちょっととまどい、言葉が出ませんでした。

巡視員として県有林を巡回して10年間、山火事もなく過ごしてきたことが、私にとって一番嬉しく思っていることです。

林業振興班の皆さん、10年間いろいろとお世話になりました。心から感謝申し上げます。長い間、本当にありがとうございました。

巡視員としての10年を振り返り、私の感じた一言といたします。



自然保護員
(大河原町・柴田町)
武澤 正一 氏

平成16年4月初めに大河原合同庁舎で、宮城県知事からの辞令で自然保護員を拝命しました。自然保護員はどんな仕事か、その存在すら知らなかった小生がこの仕事を引き受け戸惑いましたが、前任者が優しく指導してくれたので、仕事の内容を理解することができました。柴田町に住んで28年、大河原町と柴田町がこんなにも広いものとは、この仕事を引き受け初めて知りました。

これまでは、白鳥とカモの見分けしかできなかったのですが、野鳥調査はカモの種類を覚えることから始まります。オナガガモ・マガモ・コガモ・ホシハジロ・カルガモなど、観察していると面白いことに気付きました。餌は川底に沈んでいるので、海ガモであるキンクハジロは、川底に潜って餌をとります。他のカモたちは潜れないので、おしりを逆さまにして餌をとります。ところが、キンクハジロが潜って餌をとるのを見て悔しがついた数羽のオナガガモは突然潜って餌をとることを覚えました。私は目を疑いました。思わず拍手しました。また、こんなこともありました。春の有害鳥獣駆除で、田植えの済んだ田んぼにカルガモのつがいがいきました。カルガモは渡り鳥ではありません。1年中居て稲を食害するので、有害鳥獣に指定されています。駆除隊員はそのカルガモに向けて散弾銃を発射しました。1羽には命中しましたが、もう1羽は傷を負いながらも逃げました。田んぼの草が生い茂った畦に逃げ込んだのです。隊員たちは必死でその鳥を探しましたがとうとう見つかりませんでした。その後その鳥はどうなったかなあ……。

“伐って未来ン” 仙南の森づくり運動イメージキャラクター誕生！！ その名は・・・「伐っ太郎」（きったろう）

当事務所で展開している「“伐って未来ン仙南の森づくり”運動を広く周知していただくために、この度、イメージキャラクターを作成しました。

それが右図のデザインで、「伐った太郎（きったろう）」という名前を付けました。伐っ太郎は、当事務所のD・Tデザイナーを中心に、専門家のアドバイスも頂きながら完成となりました。

今後は、このイメージキャラクターをいろいろな場面で活用して、本運動のPRをしていきたいと思えます。

この「伐っ太郎」が皆様に親しまれるとともに本運動が仙南地域全体に広がることを期待します。

（担当：武田）



“伐って未来ン” 仙南の森づくり運動では、仙南地域の豊富な森林資源を活かすために、収益性の高い間伐を中心とした森林整備を進めています。所有林の間伐をご検討の方は、ぜひご一報下さい。

仙南発！ 間伐材を使った新製品第1弾 「間伐っち（かんぱっち）」

当事務所では、「“伐って未来ン” 仙南の森づくり”運動を展開して、間伐の推進を行っていますが、その一環として間伐材の有効活用も掲げています。そこで、宮城南部流域森林・林業活性化センターとの協働により、間伐材を利用した記章（バッジ）を作成しました。これは、間伐材を丸棒加工（径約70mm）し、それを輪切り（厚さ約4mm）にして両用ピンを取り付けたもので、木の持つ特有の香りや感触が心を和ませてくれます。

間伐材を使ったこの製品については、広く親しまれるように、「間伐っち（かんぱっち）」と命名しました。表面は木目がありますが、平面ですのでラベルシート等を使って自分で加工することができます。職場等のサークル等の名札やオリジナルバッジなど、広く活用することができます。また、ご要望に応じて、木の性質を活かした焼き印での加工も可能です。

自然に優しい素材を使った、この「間伐っち」をぜひ御活用下さい。（担当：前田）

〔「間伐っち」に関する問い合わせ先：七ヶ宿町森林組合0224（37）2314〕



間伐っち製品



間伐っちの使用例（伐って未来ン運動推進バッジとしての活用）

編集後記

赴任してこの1年は、本当にあっという間で、いろいろな経験をさせていただきました。平成20年度は、もっと・もっと現場に足を運んで、様々な取り組みを行ってみたいと思います。引き続き、皆様の御協力よろしくお願ひします。（編集M）

シ リ ー ズ

★フレッシュフォレスター（第3回）★（仙南中央森林組合 金子修さん）

今回ご登場いただきます仙南の若手林業人“フレッシュフォレスター”は、仙南中央森林組合の金子修さんです。

—まず、ご出身地を教えてください。

「地元の角田市梶賀です。」

—森林組合に入ってどの位になりましたか？

「平成4年からお世話になり、16年になります。」

—森林組合で働きたいと思ったのには、どんな動機があったのでしょうか？

「きっかけは、高校の時の先生に紹介されたこと。いろいろと話を聞いているうちに、自然の中で働くこの仕事に魅力を感じました。」

—現在の担当業務を教えてください。

「購買業務と高圧線の支障木伐採、緑資源機構などです。」

—森林・林業のお仕事をされていて、どんな時に喜びを感じますか？

「荒れていた山に植林した苗木が年々成長し、山が緑一面になったのを見たときは、何とも言えない感動を覚えますね。」

—もし、金子さんがご自分で自由に森林造りをできるとしたら、どんな森林になるでしょうね？

「実のなる樹木が何種類もあり、野生動物たちが集まるような森林を造ってみたいと思います。」

—ところで、プライベートでのご趣味は？

「釣りとケイバ（JRA）を楽しんでいます。」

—最後に、仙南中央森林組合管内のおすすめスポットをご紹介ください。

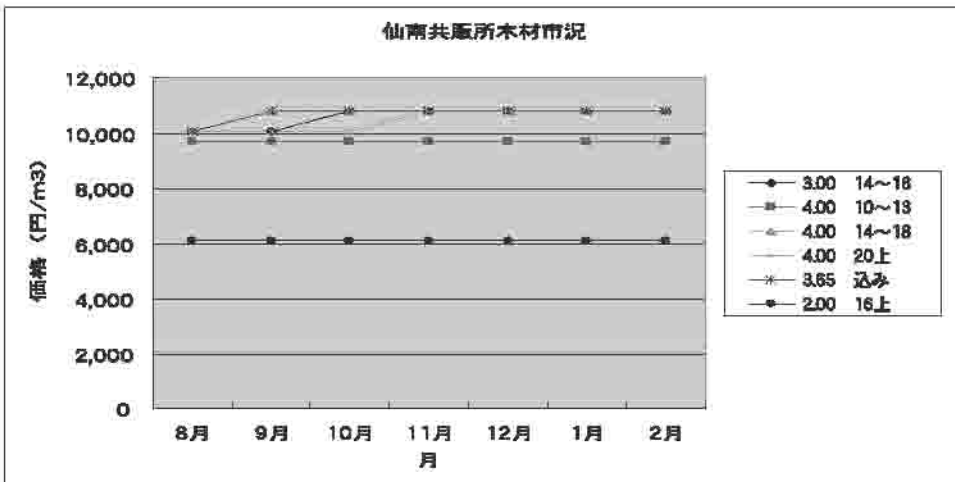
「角田市の手代木沼は、白鳥と蓮の花が綺麗ですよ。それに大河原町から柴田町にかけての桜ですね。白石川の一目千本桜と船岡城址公園の桜が見事ですから、おすすめです。」

—今後もますますのご活躍を期待しております。どうもありがとうございました。

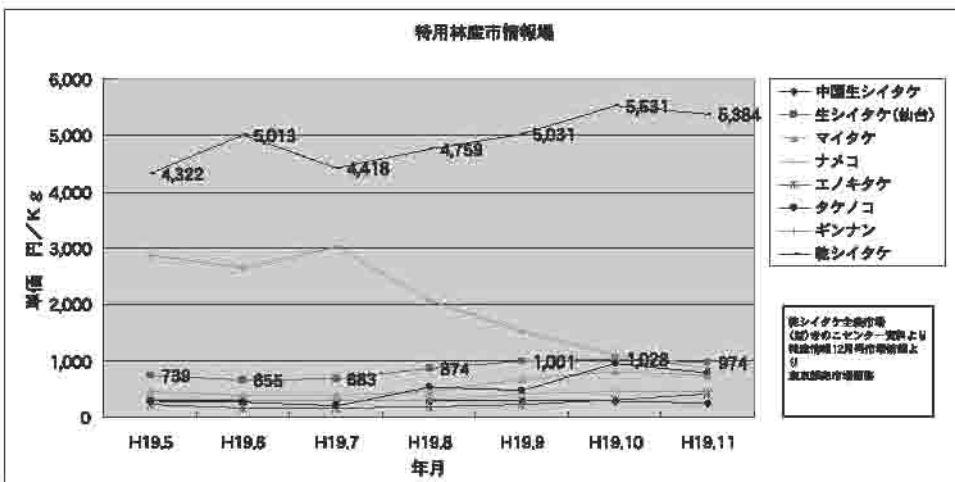
（聞き手：武田）



市 況



11月以降、価格は横ばいで推移しています。4.00mの20cm上材と3.65mは品不足のため動きは良好で価格は横ばいから値上がり傾向にあると見込まれます。今後もこの状況は続くものと思われるので欠点のない材については出来るだけ選別し有利な販売につながるよう作業をお願いします。



秋口以降乾椎茸の価格は久々に5,000円台を上まわり、年末の需要期までおおむね順調に進み、引きあいは強く市況は高水準になっています。

また、生しいたけは1,000円前後で安定して推移しています。入荷量については仙台中央卸売市場の情報によると中国産椎茸の入荷量が激減し、県産椎茸の入荷量が増加しました。（対前年次比：宮城県産108%、中国産59%）